



Challenge for collaborative approach  
to sports medicine with MSK ultrasonography



第44回日本足の外科学会学術集会

モーニングセミナー

運動器エコーがチーム医療を変える

—東京 2020 に向けて—

日時

2019年  
9月27日(金)  
7:20~8:20

会場

第2会場  
ロイトン札幌3階  
ロイトンホールBC

座長

野口 昌彦 先生 (一般社団法人至誠会第二病院整形外科・足の外科センター)

演者

熊井 司 先生 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

【認定単位】 N 整形外科専門医資格継続単位 1単位 必須分野：2外傷性疾患(外傷性スポーツ障害を含む)  
または、S スポーツ医 資格継続単位 1単位

・日整会単位を取得する先生は、講演開始10分前までに受講申込が必要です。(受講料:1,000円/1単位)  
・講演開始後10分までに、IC会員カードを講演会場入口のカードリーダーにかざして出席登録が必要です。  
※日本整形外科学会のIC会員カードを必ずご持参ください。

共催：第44回日本足の外科学会学術集会

日本シグマックス株式会社 キヤノンメディカルシステムズ株式会社

第44回日本足の外科学会学術集会

# モーニングセミナー

2019年 9月27日(金) 7:20~8:20

座長 野口 昌彦 先生

(一般社団法人至誠会第二病院整形外科・足の外科センター)

## 運動器エコーがチーム医療を変える

### —東京 2020 に向けて—

Challenge for collaborative approach  
to sports medicine with MSK ultrasonography

熊井 司 先生

早稲田大学スポーツ科学学術院

近年の運動器エコーの発達と普及は目覚ましいものがある。放射線被曝の危険性が無く、患者さんに苦痛を与えない検査法であるだけでなく、私たち医師が直接患者さんに接し、モニターの動画をリアルタイムに一緒に見ながら診療できることで、患者さんとのコミュニケーションを深める上での有用なツールとなっている。特に「足」は皮下組織が少なく、ほとんどの腱、腱膜、靭帯といった軟部組織が体表から3 cm 以内に存在しているため、高周波リニアプローブを用いた超音波検査で、ほぼ全域にわたる軟部組織の描出が可能である。運動器エコーは足の外科診療に際し不可欠の診断・治療ツールとなりつつある。

またエコー機器技術の進歩により、医療現場での多様性に対応した様々な機種が開発されつつある。より微細で低流速の血流を描出可能にしたドプラ法、軟部組織の弾性特性を計測できる shear wave elastography といったより高度な機能を装備したモデルから、現場に持ち出すことを優先し携帯性を追求したモデル、より簡便な操作を目的としたモデルなど、各医療現場でのニーズに応えることが可能となってきている。

厚生労働省の推進する「チーム医療」では、医師、看護師、理学療法士といった各職種における専門性の向上、役割の拡大、連携・補完の推進が進められており、目的と情報の共有が広く求められている。そんな中で運動器エコーは、医療チームを構成するスタッフ間で共有することのできる情報を提供するツールとしても用いられるようになってきている。エコー画像が共通言語の一つとなり得る日も近いのではないだろうか。

このセミナーでは、とくに医療の必要性が高いスポーツ医療の現場を例に運動器エコーの新たな有用性を考えてみる。



汎用超音波画像診断装置

ポケットエコー **miruco**  
リニアプローブ



超音波画像診断装置

**Viamo sv7**